

創価大学の歴史と理念

1. 創価大学創立の淵源

創価大学は、1971（昭和 46）年、創価学会第 3 代会長（現在・名誉会長）の池田大作によって創立された。しかし、創価大学創立の淵源は、第 2 代会長戸田城聖、初代会長の牧口常三郎にまでさかのぼる。

牧口常三郎は 1871（明治 4）年に生を受けた。北海道師範学校を卒業後、同校の教諭を務めた。その後、青雲の志を抱いて上京し、約 20 年の間に白金尋常小学校など 6 つの学校の校長を歴任した。牧口は校長として直接教育に携わりながら、教育の目的は価値創造にある、教育とは子供の幸福のためにあるという理念を醸成させていった。1930（昭和 5）年、彼は、その理念を『創価教育学体系』第 1 巻に結実させた。創価大学の「創価」は、この『創価教育学体系』に由来する。その後も彼は自身の教育理念を膨たくし、精力的に教育運動、宗教運動を展開させていった。しかし、その活動は軍国主義教育を推進する軍部の禁に触れるところとなり、投獄され、1944（昭和 19）年に獄中で逝去した。

この創価教育の理念を受け継いだのが戸田城聖である。戸田は 1900（明治 33）年に誕生した。北海道で教員生活を送った後に上京、牧口に師事して、「創価教育学会」の創立に尽力した。牧口を支えて、教育改革、宗教改革に取り組んだ。戦時中は、牧口とともに 2 年余りの獄中生活を送った。出獄後、「創価教育学会」を「創価学会」に改称して、1951（昭和 26）年に第 2 代会長に就任した。戸田は創価学会の活動を通じて、牧口の創価教育の理念と実践を継承し発展させたが、創価大学創立の日を迎えることなく、1958（昭和 33）年 4 月 2 日に逝去した。この日は、本学の創立記念日となっている。

2 代にわたる創価教育の理念は、池田大作によって実現された。1950（昭和 25）年、戸田から創価大学設立の意思を託された池田は 1968（昭和 43）年に創価学園を創立し、3 年後の 1971（昭和 46）年、3 つの「建学の精神」を示して創価大学を創立した。この年は、くしくも牧口常三郎の生誕 100 年とも重なる記念すべき年であった。

2. 創価大学の歩みと建学の精神

1971（昭和 46）年 4 月、創価大学は、経済学部経済学科、法学部法律学科、文学部英文学科・社会学科の 3 学部 4 学科で出発した。開学の前年には東京大学の入試が行われないなど、大学紛争の最も厳しい時代に、創価大学は「人間教育の最高学府たれ、新しき大文化建設の揺籃たれ、人類の平和を守るフォートレス（要塞）たれ」との「建学の精神」を掲げて開学された。

文系 3 学部で発足した本学は、1976（昭和 51）年に経営学部と教育学部を開設、1991（平

成3)年には工学部を開設し、現在では6学部を擁するまでになっている。また、1975（昭和50）年に、経済学研究科経済学専攻、法学研究科法律学専攻、文学研究科英文学専攻・社会学専攻の博士前期課程で出発した大学院は、現在では、博士前期課程と後期課程からなる4研究科と法科大学院からなっている。また、1976（昭和51）年には、通信教育課程を経済学部・法学部に設置（後に教育学部にも通信教育課程を設置）し、時代を先取りした生涯学習を開始した。また、1975（昭和50）年には留学生受け入れのための別科日本語研修課程（現在は日本語特別課程も設置）を設置し、国際化に向けて大きく前進することになった。